

平成30年度指定管理運営業務評価票

施設名称：府立江之子島文化芸術創造センター	指定管理者：長谷工コミュニティ・E-DESIGN プラットフォームグループ	指定期間：平成29年4月1日～平成34年3月31日	所管課：府民文化部 文化・スポーツ室 文化課
-----------------------	---------------------------------------	---------------------------	------------------------

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
			S～C		S～C	
<p>一 提案の履行状況に関する項目</p> <p>(1) 施設の設置目的及び管理運営方針</p>	<p>■センターが提示した施設の運営方針や活動方針に則り、運営がなされているか。</p> <p>■enoco ならではの場作りと運用に努め、主体的な創造活動と交流の機会を提供し、場の活性化がなされているか。</p> <p>■各事業はセンターの方向性・強みづくりに沿った運営がなされているか。</p> <p>【目標値】</p> <p>◇来館者数延べ 155,000 人</p> <p>◇文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ数 680 件</p> <p>◇enoco と創造的活動を協働した個人・団体等の数 230 件</p>	<p>平成30年度事業計画に記載した運営方針と活動方針に基づき、計画的に事業を計画・実施している。「ネットワーク」「教育」「プラットフォーム」を enoco の強みづくりの3本柱と位置付け、以下の事業を実施し成果を上げてきた。</p> <p>「ネットワーク」 今後5年間の enoco の方向性を「文化的コモンズの形成と担い手の育成」と設定し、5年後を見据えたネットワーク形成に取り組んでいる。今年度は大阪の芸術文化関係機関との連携を強めた。</p> <p>「教育」 プログラムを再編して、多様な世代・多様な関心を持つ府民が主体的に創造活動参画できる事業を実施した。</p> <p>「プラットフォーム」 えのこクラブを本格的に始動させた。また、プラットフォーム形成支援事業との連携を深め、事業終了後の方針を検討している。</p> <p>また、今年度は、より多様で多くの人々に利用して頂ける施設とするため、「場の活性化」を掲げ、地下スペースの整備にあたっている。</p> <p>【実績12月末】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来館者数延べ 88,472 人（達成率 57 %） 文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ数 552 件（達成率 81 %） 内、enoco と創造的活動を協働した個人・団体等の数 123 件（達成率 53 %） <p>【プラットフォーム形成支援事業】（委託事業）</p> <p>◆カンヴァススキームの市町村展開（わがまちカンヴァス）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生野区 泉南市 岬町 泉大津市 茨木市 東大阪市 羽曳野市 <p>◆Osaka Creative Forum 3/29（金）うめきた SHIP ホールにて開催予定。</p> <p>◆手引き集制作 これまでのプラットフォーム形成支援事業の成果をとりまとめた手引き集を作成中。</p>	A	<p>・指定管理2期目の2年目となる今年度は、より多くの府民やクリエイターに enoco を活用してもらえるよう、あらゆる機会を活用して認知度の向上に取り組んできた。</p> <p>・また、「教育」プログラムを再編して、府民が主体的に創造活動に参画できる定常的な事業を実施している。</p> <p>・今年度の重点方針である『場の活性化』に向け、コレクション展では、企画内容に力を入れて新規層獲得に努めた。</p> <p>・1月からは、地下にカフェがオープンするため、enoco 事業と連携した企画を練り、場の活性化に向けて引続き努めてほしい。</p> <p>・貸館については、利用率がかなり低いため、抜本的な見直しを早急に図ること。</p> <p>・目標値については、文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ数は昨年と同時期（H29.12月末：414件）を上回る実績をあげている。</p> <p>【プラットフォーム形成支援事業】</p> <p>・事業計画書に基づき、別途委託事業であるプラットフォーム形成支援事業と指定管理運営業務との連動性を高め、事業目的の効果を挙げている。「わがまちカンヴァス」では、クリエイターの紹介、サポートを行った。3月開催予定の「Osaka Creative Forum」では、広報協力を行うなど連携を進めていく。</p>	A	<p>・昨年度指摘した場の活性化に向け、集客を図った事業内容の工夫やカフェのオープンなどの取組みが行われており評価できる。</p> <p>・数字だけで評価したくないため、目標に対する実績値の理由も併せて説明していただきたい。</p> <p>・「プラットフォーム形成支援事業」が外部に対して enoco へのアプローチの役割を果たしており、それが enoco の営業活動に貢献している。</p> <p>・「プラットフォーム形成支援事業」で実施するイベントのチラシについて、ロゴマークが掲載されていないなど、enoco の事業であることが一目でわかりにくい。</p> <p>・今後は、アウターブランディング（館外に向けてのブランドを構築すること）を意識していく必要があると考える。例えば、保育所プログラムのうちのアート部分のみを enoco が請け負うなどの展開は考えられないか。</p> <p>・どのような人が enoco のフォロワーになるかも重要。アーティストの利用を促すには、「人につく」「ことにつく」「場所につく」の三つ巴が必要で、この要素を押さえないといけない。</p> <p>・収支の点や全体のバランスから見ても、貸館事業の「穴」をどのように埋めるのかというより、「穴」がどのようなものなのか、より明確化させ、その対策を講じていくことが、次年度の事業計画の肝になると考える。</p>

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
			S～C		S～C	
(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果	■高齢者、障がい者等に対する利用援助が適切になされているか。	各種研修を実施して職員の知識と意識を高め、高齢者や障がい者等、府民の誰もが安心して気持ちよく利用できるよう、ホスピタリティを意識した接遇に努めている。特に障がい者の施設利用については、外部組織と連携して障がい者に活動や表現の機会を提供する事業を企画・実施（1月のマルシェに合わせて「(大阪成蹊大学芸術学部と協働し、社会福祉施設「西淡路希望の家」の美術部で活動する作家を紹介する展示を実施)	A	・施設の活動内容を活かした形で障がい者の利用を促進する工夫を行っている。 ・障がい等により配慮を希望される場合、事前相談を承る旨をHPや事業チラシに記載すること。 ・引続き、府民の誰もが平等に利用できるようホスピタリティを意識した接遇に努めること。	A	・特に意見なし。
(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果 (4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果	①協働の拠点づくりに関する業務が適切になされているか。 ア 文化関係機関とのネットワークの構築と文化情報の収集・提供 イ 創造的な活動機会の創出等の支援 ウ 相談窓口の設置	ア 文化関係機関とのネットワークの構築と文化情報の収集・提供 ・大阪府内の文化関係機関のネットワーク形成をテーマに、アーツサポート関西、大阪アーツカウンシル、一般財団法人おおさか創造千島財団と連携し、情報や課題の共有の場「おおさかアートコモンズ（仮称）」をスタート。11月にキックオフミーティング（フォーラム）を行い、今後も定期的にトークやミーティングを開催し、「文化的コモンズの形成と担い手の育成」に向けてネットワークを広げていく。 ・大阪市立芸術創造館との共催で「ワークショップフェスティバル DOORS」を開催。（8月） ・デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）が主催する「KIITO マルシェ」に昨年度に引き続いて参加し、施設連携・施設PRを行った。 【今後開催予定の事業について】 ◆マッセ OSAKA（おおさか市町村職員研修研究センター）広域研究活動支援事業 「文化・芸術を活かしたまちづくり研究会」の企画によるシンポジウム「文化芸術基本法と自治体の役割」を共催で開催。自治体職員が企画を担い、文化・芸術を活かしたまちづくりに関する研究成果や課題の共有を行うシンポジウム。企画内容・運営に関するアドバイス・サポートを行うとともに、スタッフがパネルディスカッションに登壇（1/15開催予定） ◆「おおさかアートコモンズ（仮称）第一回ギャザリング」アートプロジェクトに関わってこられた方々を招き、地域の住民などを巻き込んだプロジェクトを進めていく上での秘訣や工夫を議論する。（2/15 地下 1F カフェにて開催予定） ◆創造のテーブル 2019 「教育」「プラットフォーム」をテーマに第一線で活躍するゲストを招き、enoco や大阪、社会の課題や今後の方向性を議論する。ネットワーク拠点化を進める（2/23開催予定） イ 創造的な活動機会の創出等の支援 ◆enoco の学校 教育プログラムを再編し、『enoco の学校』という一つの名前のもと3つの学科を展開。多様な世代や関心に対応して、広く府民が創造的な活動を体験できるプログラムへと組み替えた。（1学科は自主事業として展開） ◎「続・enoco の学校」学科 ：これまでの〈enoco の学校ーソーシャル・デザインコース〉をベースにした実践的な学びの場。ベーシックコースとアドバンスコースの2コースを設定。 受講生：ベーシック 16名、アドバンス 13名 ◎「こどもアート」学科 ：月1回の小学生を対象とした定期的なアートプログラム。 受講生 13名	S	ア 文化関係機関とのネットワークの構築と文化情報の収集・提供 ・「おおさかアートコモンズ（仮称）」を立ち上げる等、府内外の文化施設等と連携を図り、定期的にトークやミーティングを開催して、ネットワークの拡充に努めている。 ・引続きネットワークの強化に努め、クリエイター等がenoco に集う仕掛けづくりをしてほしい。 ◆創造のテーブル 2019 ・ターゲットに向けて効果的な広報に取り組むこと。 イ 創造的な活動機会の創出等の支援 ◆enoco の学校 ・従来の教育的事業を再編し、多様で多くの人々が施設を利用できるよう、通年のプログラムが構築されている。館に足を運ぶ動機付けをつくるために、ベースになる活動を行い、館の活性化に繋がっている。 ・講座内容や事業期間を工夫し、通年以外の講座も設けて受講人数を増やすこと。	S	・今年度から、大阪の芸術文化の支援や助成活動を行う3つの団体（アーツサポート関西、大阪アーツカウンシル、一般社団法人おおさか千島財団）と連携し、情報や課題の共有を行う場である「おおさかアートコモンズ（仮称）」を立ち上げ、11月24日にキックオフとなるオープンミーティングを開催。引続き、2月15日には、課題や情報を共有し参加者の方とともに話していく「ギャザリング」（集会）を開催するなど、文化関係機関とのネットワーク強化に向けた新たな取組みを進めており、評価する。

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価		施設所管課の評価		評価委員会の指摘・提言
			評価 S～C		評価 S～C	
		<p>◎「アウトブット」学科（自主事業として開催） ：座学と体験を組み合わせた短期講座。enoco やまちを舞台に、学んだことを実践する場を持つ。現在まで2講座開講。 受講生：「大阪の近代建築のサポーターになろう」7名 「マチとウチを彩るガーデニングを学ぼう」9名</p> <p>◆大阪成蹊大学芸術学部表現教育コースとの連携協定締結 ・府内の障がい者施設の作品展を学生と共同で開催予定（1月） ・「こどもアート」学科の運営補助に学生が参加</p> <p>◆大学生等のインターンの受け入れ ◎enoco インターン2名（大阪成蹊大学芸術学部表現教育コース、京都造形芸術大学アートプロデュース学科）</p> <p>【今後開催予定の事業について】 ◆enoco の学校「こどもアート学科」作品展 受講している子供たちが全7回のプログラムの成果を発表する作品展を実施。子供たち自身で展覧会の構成を行う（3月開催予定） ◆enoco の学校「続・enoco の学校学科」江之子島実験室 「続・enoco の学校学科」の受講生たちが学びを生かし、自ら企画を立て実験・実践を行う（3/16開催予定）。</p> <p>ウ 相談窓口の設置 ◆「eno so done!」 5月から月1回「eno so done!」と題した相談窓口を設置するほか、大阪府内の自治体、市民団体を中心に様々な相談に応えている。 ◎相談件数：6件 上記のほか、府民からの文化芸術に関する相談、問い合わせがあった場合は随時対応している。</p>		<p>【今後開催予定の事業について】 ◆enoco の学校 ・作品展や江之子島実験室実施後は、速やかに受講生から学びや気づき、要望等のヒアリングを行い、翌年度に繋げていくこと。</p> <p>ウ 相談窓口の設置 ◆「eno so done!」 ・市町村やクリエイター等からの要望に的確に対応している。</p>		
	<p>②フリースペース、ライブラリー兼休憩室等の利活用に関する業務</p> <p>■誰もが自由に利用できる空間として運用されているか。 ■利用価値を高め、魅力ある空間として整備・運用されているか。</p>	<p>地下のフリースペースは来館者、地域の人々、クリエイターが自由に使用できる休憩スペースとして運用していたが、新しいカフェの誘致を行い、「CORAL PARLOR enoco」としてリニューアルオープン予定（1月）。また、enoco の場の活性化に向けて、カフェと連携したイベント等を実施予定（対話型鑑賞サロン、トークイベント等）</p>	A	<p>・若い親子層や若者層をターゲットとした空間づくりやメニュー構成に期待する。 ・クリエイターや府民が気軽に交流できる場を提供し、フリースペースを活用したワークショップやイベントを積極的に開催していくこと。</p>	A	<p>・1月19日に地下1階にオープンしたカフェ（CORAL PARLOR enoco）に多様な人々が滞在するよう工夫を行うこと。 ・事業実施においても積極的に地下のフリースペースを活用し、館の活性化に繋げること。</p>
	<p>③府所蔵作品活用業務</p> <p>■美術コレクションの積極的な貸出し</p> <p>【目標値】 ◇作品活用点数 1,225点 ◇中規模以上の企画展 3回/年 ※共催含む</p>	<p>（ア）美術コレクションの保管 保管する美術コレクションに保険をかけ、適切な保管・管理に努めている。美術コレクションの内容に精通した学芸員を1名配置すると共に、今年度より他の美術館で長年収蔵品担当学芸員を務めた経験を持つ学芸員（出向者）が1名加わった。</p> <p>（イ）美術コレクションの展示 ◆「enoco おしゃべり美術館」展（会期：8月4日～26日） ※来場者数：1045人 ※作品展示数：24点 ※関連イベントでの活用数：17点（模写、対話型鑑賞） ・夏休み期間に合わせて開催。会場内での会話をOKとし、会期中の週末には対話型鑑賞や模写のイベントを開催し、親子・家族連れ層への訴求を狙った。低年齢の子供を連れた来場者がこれまでのコレクション展に比べて多く、リピーターも多かった。また会期終盤にマルシェも併せて実施することで集客を図った。</p>		<p>（ア）美術コレクションの保管 引続き、適切な保管・管理に努めること。</p> <p>（イ）美術コレクションの展示 ・コレクション展と「えのこ de マルシェ」を併催する等、集客を図り、場の活性化に努めている。 ・「enoco おしゃべり美術館」や1月開催予定の「間合いの良さーコレクション考察ー」等、単に作品を展示するだけでなく、新規層開拓を狙った企画内容となっており評価できる。 ・鑑賞者から感想などを積極的にヒアリングし、次年度に繋げてほしい。</p>		<p>・特に意見なし。</p>

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価		施設所管課の評価		評価委員会の指摘・提言
			評価 S～C		評価 S～C	
		<p>◆『プレスアルト』誌と戦後関西の広告（府市共催）（会期：10月2日～10月13日）</p> <p>※ 同時開催「大阪府 20 世紀美術コレクション 特集 田中一光」</p> <p>※ 来場者数： 789 人</p> <p>※作品展示数：109 点（府：29 点）</p> <p>・大阪文化芸術フェスの連携企画として実施。大阪新美術館建設準備室（当時）所蔵の『プレスアルト』誌コレクションの戦後発刊分の初展示を行った。大阪府のコレクションとサントリーポスターコレクションも含めた戦後関西の広告とデザインの魅力を伝える展示、広告や視覚文化の研究者・専門家による記念シンポジウムにより新たな来館者層の開拓を狙った。</p> <p>※シンポジウム参加者：75 名</p> <p>◆「enoco コレクションキャラバン」</p> <p>・府内の小学校・中学校・高等学校（国立・公立・私立、支援学校含む）を対象に、美術コレクションを持参して展示しワークショップを実施することで、美術コレクションの周知に努め、貸出しや来館者の増加に努めた。</p> <p>・今年度は、視覚障がいを持つ子供たちを対象に触れることのできる作品を展示・鑑賞したり、昨年度実施校において enoco スタッフではなく教員が対話型鑑賞を実施するためのサポートを行うなど、多様なニーズへの対応を試みている。</p> <p>※5 校採用に対し、11 校の応募あり。</p> <p>実施校：四天王寺小学校（10 月実施済）、寝屋川市立西小学校（11 月実施済）、岬町立深日小学校（1 月実施予定）、大阪南視覚支援学校（1 月実施予定）、大阪市苗代小学校（2 月実施予定）</p> <p>【今後開催予定の事業について】</p> <p>◆1 月コレクション展「間合いの良さーコレクション考察ー」展（会期：1 月 11 日～1 月 27 日）（作品展示数 45 点）</p> <p>大阪を拠点に活動する現代美術家 Yukawa-Nakayasu の作品とコラボレーションし、美術家の視点から府所蔵作品を選び、作品の新たな魅力発掘に挑戦する。Yukawa-Nakayasu は enoco が実施していた若手アーティストサポート事業を経て近年国内外で活躍しており、enoco のネットワークを活用した展覧会でもある。またマルシェも併せて実施、マルシェ開催日には府学芸員と作家によるギャラリートークも実施。</p> <p>（ウ）美術コレクションの貸出し</p> <p>・江之子島の日本生命病院とは協議を経てコレクションを常時展示している（2 点/年 4 回展示替え）。展示する作品については病院スタッフとともに選定している。</p> <p>・大阪国際がんセンターでは、美術コレクションの管理や掛け替え、案内パンフレットの制作など、大阪国際がんセンターの要望にきめ細かに応えることで、貸出しの長期継続化に努めている。</p> <p>◎作品展示数：115 点（年度末入れ替え 50 点予定）</p> <p>・新規貸出先は 2 件だが、enoco がネットワークを持つ芸術団体が主催する府内小学校での対話型鑑賞授業への貸出である。コレクションキャラバンの試みが enoco 以外の文化芸術団体にも広がってきている。</p> <p>◎新規貸出件数：2 件（予定）／新規貸出作品点数：19 点（予定）</p> <p>（一般社団法人タチヨナ、山本能楽堂）</p> <p>（エ）作品状態チェック、清掃業務</p> <p>・コレクション展や新規貸出の際に額やガラス等の状態を確認し、必要に応じて修復等の対応を行っている。</p>	S	<p>・①『プレスアルト』誌のケース展示や工夫したパーティションの配置、②新美術館・大阪府所蔵の同時代のポスターコレクションの展示、③大学生による研究ポスター発表で構成されており展示の仕方に工夫があった。</p> <p>◆「enoco コレクションキャラバン」</p> <p>・単なる展示ではなく、学芸員のサポートのもと、子どもたち同士で対話を重ね、美術作品を鑑賞することにより、従来にはない形で作品への関心、理解を深める機会を提供している。</p> <p>・初の支援学校での実施に際し、綿密に学校と調整をはかり、絵画に依らず、触れて作品の魅力を楽しめる鑑賞方法を工夫している。</p> <p>・昨年度実施校において、enoco スタッフではなく、教員が対話型鑑賞を実践する等、事業の広がりが見受けられる。教員が実施する場を見学し、プラスとなる気付きは当事業へ積極的に反映してほしい。</p> <p>（ウ）美術コレクションの貸出し</p> <p>・大阪国際がんセンターでは、作品の状況を確認しながら、センターの細かい要望等にも丁寧に対応し、展示替えを行いながら 100 点を超える展示を継続させている。また案内パンフレットの更新も行うなど評価できる。</p> <p>・今後もより多くの作品を多様な形で府民の方に鑑賞いただけるよう活用に努めること。</p> <p>（エ）作品状態チェック、清掃業務</p> <p>・貸出作品状態チェック、修復等を確実にやっているが、次年度からは全作品の清掃を年 1 回以上実施することとし（※個々については文化課と要調整）、より作品の適切な保全、良好な展示環境の維持に努めること。</p> <p>・今後も府民の貴重な財産である所蔵作品活用に努めること。</p>	S	

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価		施設所管課の評価		評価委員会の指摘・提言
			評価 S～C		評価 S～C	
		<p>【今後開催予定の事業について】</p> <p>◆モノレール美術館・万博記念公園設定作品の清掃、長期貸出作品のチェック（3月）</p> <p>【実績 12 月末時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品活用点数 822 点（達成率 67%） ・中規模以上の企画展 2 回（達成率 66.6%） 				
	<p>④貸館運営業務</p> <p>■戦略的な営業の実施 ■適正な減免の実施</p> <p>【目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多目的ルーム（1～4） 利用率 60% ◇多目的ルーム（5～12） 利用率 60% 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の振興町会に依頼して、町内会会館にパンフレットを配架していただき利用促進に努めた。 ・貸館における利用料の減免については、館内に審査委員会を設置し、利用目的や内容を評価して厳正に審査を行った。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸室利用の促進のため、案内チラシを作成する。室内での飲食が可能であることや短期貸し（1日貸し）でのフォーラム・セミナーでの利用も可能であること等を PR し、1 週間単位での展覧会利用が少ない期間の空きを活用する。 貸館事業 PR ため、SNS 広告、リスティング広告等を実施する。 <p>【実績 12 月末時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R 1～4（展示室）利用率 30.9%（達成率 52%） ・R 5～12（多目的・事務室）利用率 52.7%（達成率 88%） <p>※参考：主催事業を含めた利用率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R1～4（展示室）利用率 41.1% ・R5～12（多目的・事務室）利用率 54.7% <ul style="list-style-type: none"> ・減免：全額 0 件、半額 1 件 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率（特に多目的ルーム 1～4）が低い数字にとどまっているため、利用料金や貸室運用規程の見直しを行ったりするなど抜本的な改善策を打ち、利用率の増加に努めること。 ・新規顧客獲得に向けて、貸館事業の広報に努めること。 ・引続き、長期利用の開拓等も行うこと。 ・利用率向上、収入確保に向けた改善計画を平成 30 年度中に所管課に示すこと。 ・運営については、規程に沿って運営を行うとともに、審査委員会において審査を実施。不平等な取扱いがないよう適切に運営している。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような人に利用していただきたいのか、仮にアーティストであれば求める機能は何なのか、議論を行い、enoco 側の姿勢やメッセージとしてしっかりと発信すべき。 ・enoco ならではの PR ポイントをしっかりと打ち出していくこと。 ・リピーター限定のポイント付与設定、地域通貨、閑散期割引、繁忙期割増、紹介者割引、時間貸しの導入等、まだまだ工夫の余地がある。ゼロベースで検討していくべき。 ・類似施設がどのような運営をしているのか、利用料金設定はいくらのか等を調べるとよいのではないか。 ・レンタルスペース検索サイト『SPACE MARKET』への貸室情報掲載を検討すべき。 ・貸室の利用状況について、ホームページでは、予約済が掲載されており、空室状況が一目でわかりにくい、また、その場で予約ができないため改善が必要である。
	<p>⑤地域住民や江之子島まちづくり事業との協働・連帯業務</p> <p>■地域の社会活動を総合的にサポートする体制を構築 ■西区の水辺空間やクリエイターを活用したまちづくり事業の連携</p>	<p>◆「えのこ de マルシェ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回テーマを変え年 3 回実施。6 月は江之子島のまちびらきイベントと連携して実施 ◎6 月来場者数：4851 人 ◎8 月（夜市）来場者数：1200 人。ファミリーでも楽しむことのできるコレクション展も併せて開催して集客を図った。 <p>◆えのこクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日生病院、DECOCO（江之子島 A&L）、トコトコダンダン、津波高潮ステーションとともに、6 月 2 日にまちびらきイベント「えのこじまグルグル」を開催。「えのこクラブ」のメンバーがそれぞれの活動や場所をお披露目する機会となった。 ◎来場者数：約 5300 名 ・まちびらきイベントを受けて 7 月に「えのこクラブ」を開催し、まちびらきイベントの振り返りを行い、次年度に向けての課題や方針について意見交換を行った。 ・えのこクラブのメンバーでもあるトコトコダンダンの会の活動場所であるトコトコダンダン、過年度のプラットフォーム形成支援事業で制度支援を実施し、遊歩道と広場が整備された場所である。そのトコトコダンダンが、平成 29 年度日本造園学会賞設計作品部門での受賞や、GOOD DESIGN AWARD2018 “グッドデザイン金賞”、土木学会デザイン賞 2018 “奨励賞”を受賞した。 	S	<p>◆「えのこ de マルシェ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでアートに触れたことのない人に対して、アートに触れる機会を提供する場として機能している。 ・地域の交流や、アーティスト、クリエイターとのネットワークの拡大に繋がっている。 ・1 月のマルシェは、初の 2 日間開催。事業の反響や課題等を取りまとめ、次年度に活かすこと。 <p>◆えのこクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちびらきイベントとして、「えのこクラブ」のメンバーが各々の活動を披露したこともあり、来館者数が 5,000 人を超える盛大なものとなった。 ・今年度あがった課題を整理し、次年度も enoco の集客に繋がる仕組みを取り入れること。 <p>・enoco 設立時から取り組みであるトコトコダンダンが、仕組みとデザインの両面で高く評価され、各賞の受賞に結びついている。プラットフォーム形成支援事業の取組みの成果として評価できる。</p>	S	<ul style="list-style-type: none"> ・特に意見なし。

評価項目	評価基準 (内容)	指定管理者の自己評価		施設所管課の評価		評価委員会の指摘・提言
			評価 S~C		評価 S~C	
		<p>◆マンション部門が推進する江之子島まちづくり事業との連携 ・マンション部門における江之子島アート&ライフ事業である「DECOBOCO」とは密に連携を図って相互の施設利用を促進するとともに、ミニ FM「凸凹ラジオ」を運営中。enoco のポッセが中心となって運営し、津波高潮ステーションのイベント「ぼう祭のつどい」(11月11日)にて「凸凹ラジオ」の出張放送を行うなど、地域住民への enoco の PR ツールとなっている。</p> <p>・また、マンション 1F にあるスペースと enoco のレンタルスペースの営業について連携を行う予定である。</p> <p>【今後開催予定の事業について】</p> <p>◆「えのこ de マルシェ」 初の試みとして enoco の館内全体を使ったマルシェを 1 月 19 日、20 日に開催予定。カフェのグランドオープンもマルシェにあわせ enoco のスペースやカフェの PR を行い、利用促進を狙う。またコレクション展、共催展(大学・福祉施設との連携展)の会期にあわせて実施し集客や話題性の向上をはかった。 ※48 件採択(76 件応募あり)、1 件招待枠(広報イラスト担当クリエイター)</p> <p>◆「えのこクラブ」 2 月 1 日に開催予定。次年度まちびらきイベントに向けての議論やえのこクラブの運営方法について議論する。</p> <p>※DECOBOCO 「江之子島地区まちづくり事業」再開発により建てられた阿波座ライズタワーズ マーク 20/フラッグ 46 にあるマークスタジオ・フラッグスタジオの企画運営・管理を「Art & Life〜めぐりのまち、えのこじま(A&L)」というコンセプトのもと、行っている。</p>				
	<p>⑥自主事業の実施</p> <p>■生涯学習の機会の提供 ■プラットフォーム形成支援事業との連携</p>	<p>【enoco の学校アウトプット学科】(再掲) ・座学と体験を組み合わせた短期講座。enoco やまちを舞台に、学んだことを実践する場を持つ。現在まで 2 講座開講。 受講生：「大阪の近代建築のサポーターになろう」7 名 「マチとウチを彩るガーデニングを学ぼう」9 名</p> <p>(参考)【外部資金によるプラットフォーム形成支援事業】 《実施中の案件》 ◆阪南スカイタウン未利用地活用計画検討業務(大阪府 住宅まちづくり部 タウン推進局 誘致整備課 企画・整備グループ) ◆泉州農とみどりの健康ご長寿プロジェクト(大阪府泉州農と緑の総合事務所) ◆大学連携「WELLNESS LIFESTYLE 学生提案募集」(合同会社ウェルネスオープンリビングラボ) ◆豊能町協働による地域ブランド推進事業実施支援業務(豊能町秘書政策課) ◆豊能町地域によるブランドメッセージ参画モデル実施支援(豊能町 秘書政策課) ◆女性活躍マルシェ支援事業(豊能町 女性活躍室) ◆泉州アートサミットアドバイス業務(泉大津市生涯学習課)</p>	A	<p>・初の自主事業に取り組み、館の活性化にも繋がるため今後も講座の拡充等を期待する。</p> <p>【外部資金によるプラットフォーム形成支援事業】 ・これまでの実績を活かし、外部資金によるプラットフォーム手法を用いた事業を相当数受託し、市町村等への手法の周知にも努めている。</p>	A	・特に意見なし。

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
			S～C		S～C	
	<p>⑦広報計画に基づき適切になされているか。</p> <p>【目標値】</p> <p>◇WEB サイト全体の総セッション数 126,000回/年</p> <p>◇WEB サイト全体のリピーター率 40%</p> <p>◇HP 更新頻度 3回以上/週</p> <p>◇メールニュース配信者数 2,300件（者）</p> <p>◇メディア掲載数 45媒体以上/年</p> <p>◇Web 掲載数 18媒体以上/年</p>	<p>・幅広い人々に情報を伝えるべく、雑誌、新聞、WEB 媒体への情報掲載依頼を積極的に行った。</p> <p>・コレクション展ではプレスリリースにプレスが使用可能な広報用掲載画像一覧資料・申込書を添付し、メディアからの問い合わせを促した。</p> <p>・SNS はツイッターとフェイスブック、インスタグラムを中心に積極的に活用し、WEB サイトやメールマガジンと連動させることで情報の拡散に努めた。</p> <p>・一部の事業でフェイスブック広告を活用（続・enoco の学校学科募集、マルシェ公募、おしゃべり美術館）。マルシェ公募に関しては掲載後に応募が増えるなどの効果が見られた。</p> <p>・Web サイト改定後も運用する中で出てきた問題等は微修正を行って対応している。</p> <p>◆ニュースレター</p> <p>・enoco の情報や江之子島の地域情報を掲載したニュースレターを3回（各11000部）発行し、全国の美術館、アートセンター、アートスペース、芸術系の学部がある大学、大阪府内の図書館、文化・生涯学習施設、各市町村の文化・企画担当部局等に送付して、enoco の認知度向上に努めている。</p> <p>特集テーマ：「enoco の学校リニューアル」「えのこクラブ」「えのこ de マルシェ」</p> <p>【実績値 12 月末時点】</p> <p>・HP 全体の総セッション数 59,294 回/年（達成率：47%）</p> <p>・HP 全体のリピーター率 19.5%</p> <p>・HP の更新頻度 2.7 回以上/週</p> <p>・メルマガ 配信者数 2,381 件/回（達成率：104%）</p> <p>・メディア掲載数 36 件/年（達成率：80%） ※内、五大紙 9 件</p> <p>・Web 掲載数 22 件/年（達成率：122%）</p> <p>【今後の予定】</p> <p>貸館事業 PR ため、SNS 広告、リスティング広告等を実施する。</p>	A	<p>・今まで築き上げてきたネットワークを用いて、積極的にメディアへ PR することで記事掲載に繋がっている。</p> <p>・Web 掲載数については目標値を既に達成しており、評価できる。</p> <p>・フェイスブック広告を活用する等、各事業の対象者ごとに広報手段を使い分けており、工夫が凝らされている。</p> <p>・Web サイトについて、必要な情報がしっかりと届けられるよう、適宜修正すること。</p> <p>・引続き、効果的な広報活動に努め、特に貸館事業 PR については、様々な広報を行い、新規顧客獲得に努めること。</p>	A	<p>・Web 広告等を行っているが、利用に繋がったのかどうか検証が必要である。</p> <p>・enoco が使用しているワードが、一般の人々にわかりにくいもの（ワードを聞いて事業内容が瞬時にイメージできない）となっているので、工夫が必要である（「プラットフォーム」「コモンズ」等）</p>
(5)施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	<p>■センターの維持管理、安全管理、改修等が適格、迅速に実施されているか。</p> <p>■防災・安全対策等、危機管理体制が確立されているか。</p>	<p>・enoco の維持管理に必要な各種点検について、年間実施計画に基づいて予定通り実施している。</p> <p>・現地責任者の下、緊急体制を整えて連絡網を整備し、危機管理体制を確立している。</p> <p>・台風・大雨時の雨漏れ対策、北部地震時の現地確認、被害場所の応急措置を行った。</p>	A	<p>・事業実施に即した業務実施がなされており、建物の維持管理は、計画に基づき確実に行われている。</p> <p>・災害が多いが、現場確認・応急措置を取る等、迅速な対応が行われている。</p>	A	<p>・特に意見なし。</p>
(6)府施策との整合	<p>■府施策に協力して取り組んでいるか。</p>	<p>・知的障がい者の就業について、施設の特性を活かした障がい者の就労支援をすべきと評価委員からいただいた意見を基に、マルシェに障がい者福祉施設に参加してもらい、障がい者の作品・商品販売し、間接的な就労支援を行った。</p> <p>【今後開催予定の事業について】</p> <p>・視覚支援学校でコレクションキャラバンを実施（1月）</p> <p>・知的障がい者福祉施設と連携しその活動を広く府民に知ってもらう作品展を開催（1月）</p>	A	<p>・知的障がい者の就業について、施設の活動内容を活かした形で行われている。</p> <p>・視覚支援学校と調整を図り、手に触れて鑑賞できる作品を用いる等 enoco の特質を活かす形で取組んでいる。</p>	A	<p>・特に意見なし。</p>

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価		施設所管課の評価		評価委員会の指摘・提言
			評価 S～C		評価 S～C	
さらなるサービスの向上に関する事項 (1)アンケート調査等	【目標値】 ■中規模以上の企画展アンケート有効回答数 100 以上。アンケートの結果プラス評価 80%以上。 ■貸館アンケート有効回答数 50 以上。アンケートの結果プラス評価 80%以上。 ■アンケートの回収に向けた効果的な取り組み。	【実績値】 9月時点 ・中規模以上の企画展アンケート数 15 枚 （達成率 15%） アンケートプラス評価 100% ・貸館アンケート数 11 枚 （達成率 11%） アンケートプラス評価 100% ・ルーム利用者やセミナー・イベント参加者・来館者にアンケートを実施し、特にコメントには注意し適宜運営に反映している。 ・アンケートの設置場所を増やして筆記スペースも確保し、アンケートの収集に努めている。 ・一般市民が多く来訪するマルシェイベントで多くのアンケートを収集するため、設問にシールを貼るゲーム感覚のアンケートボードを引き続き実施、景品に水風船などを用意する工夫を行った。	B	・中規模以上の企画展アンケート、貸館アンケートのプラス評価について、目標値を達成。 ・評価内容については、館の PR として積極的に打ち出していくこと。 ・貸館アンケートを積極的に回収し、有効回答数の目標を達成するよう努めること。 ・利用者からの改善希望内容について、判断出来かねるものは府へ相談し、速やかに対応するよう努めること。	B	・利用者が満足している点を拾い上げて PR することにより貸館利用率向上に繋がるので、貸館アンケートの回答数の増に努めること。
	(2)その他創意工夫	■enoco のファンづくりに努めているか。 ■その他サービス向上に繋がる取り組み、創意工夫（定性的な評価も含める）に努めているか。	・ネットワークの強化に努めた結果、メルマガ登録者数も増えている。 ・enoco を中心として様々な活動を行うメンバーを「ポッセ」と名付け、活動を開始（ポッセ：「頼れる仲間」、「集まり」等の意味）。現時点では、ポッセへの参加は、enoco の学校（卒業生含む）や DECOBOCO と共同運営している「凸凹ラジオ」への参加を前提としている。 施設間連携の「KIITO マルシェ」や「DOORS」でワークショップを実施したほか、「凸凹ラジオ」で培った経験を生かし、兵庫県立美術館でラジオ局を立ち上げるなど、enoco から生まれた活動を外へと広げ、ファンづくりの輪を広げていく動きをしている。 ・プラットフォーム形成支援事業に対する自治体からの引き合いが多くあることから、自治体支援を継続するための体制づくり等を検討中である。 ※DECOBOCO（再掲） 「江之子島地区まちづくり事業」再開発により建てられた阿波座ライズタワーズ マーク 20/フラッグ 46 にあるマークスタジオ・フラッグスタジオの企画運営・管理を「Art & Life～めぐりのまち、えのこじま（A&L）」というコンセプトのもと、行っている。	A	・enoco の事業に関わった人々の出口設定としてうまく機能している。積極的に活動をする人材も育ってきており、今後も enoco スタッフと協働してファンづくりの輪を広げ、館の活性化に繋げていってほしい。	A

評価項目	評価基準 (内容)	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S~ C		S~ C		
目 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目	(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	<p>■収支計画どおりに適正に事業を実施しているか。</p> <p>【目標値】 (収入) ◇貸館収入 17,906 千円 ◇事業収入(カフェ・物販除く) 500 千円</p> <p>(支出) ◇事業費(カフェ・物販除く) 4,690 千円 ◇広告宣伝費 3,310 千円</p>	<p>【実績】 (収入) 貸館収入 11,575 千円 (達成率: 65%) 事業収入(カフェ・物販除く) 628 千円 (達成率: 126%)</p> <p>(支出) 事業費(カフェ・物販除く) 1,650 千円 (達成率: 35%) 広報宣伝費 2,877 千円 (達成率: 87%)</p> <p>・貸館収入については、計画値より減少している。目標利用率60%から計画値を算出していたが、貸館収入増の対策として、料金設定の見直し、広報手法の検討・工夫に努める。</p>	B	<p>・貸室利用率の向上のため、利用料金の見直しや広報活動を工夫すること等で収入増に努めること。 ・年度当初の事業計画が収入減を理由として縮小されることのないよう対応すること。</p>	B	・特に意見なし。
	(2)安定的な運営が可能となる人的能力	<p>■事業実施に必要な運営体制・配置になっているか。 ■従事者への管理監督体制・責任体制は妥当であるか。 ■職員研修は十分に行われているか。</p>	<p>・クリエイティブ分野に豊富な実績と人脈を有する人材を引き続き館長に配置してネットワークの構築に努めると共に、多様な分野の専門性を有し、領域横断的な協働に豊富な経験を有する人材を非常勤職員として効果的に配置することで、費用対効果の高い施設運営に努めている。また今年度より他の美術館で長年収蔵品担当学芸員を務めた経験を持つ学芸員(出向者)が1名加わった。 ・職員研修として、消防訓練・コンプライアンス研修を実施した。今後年度内に人権研修と個人情報保護研修を実施予定。</p>	A	<p>・事業実施に必要な運営体制、配置、管理監督体制になっている。 ・各種研修をきちんと実施している。</p>	A	・特に意見なし。
	(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	<p>■共同事業体の経営状況、経営規模、健全な財務状況等 (財務諸表により確認)</p>	<p>共同事業体の経営状況、経営規模、財務状況は、施設運営を担う上で問題のない状況で安定している。</p>	A	<p>・安定的な運営基盤を築いている。</p>	A	・特に意見なし。

S 計画以上に進んでいる、目標を大幅に達成している(目標値の20~30%+をめぐ)

A 計画通りに進んでいる、目標を概ね達成している

B 目標を達成できていない部分がある、一部改善が求められる

C 計画がほとんど達成できていない、大幅な改善が求められる